

矢作川直轄河川改修事業

説明資料

平成27年6月25日

国土交通省中部地方整備局

豊橋河川事務所

目 次

1. 事業の概要	
1) 流域の概要	1
2) 主要洪水	2
3) 事業の目的及び計画内容	3
2. 評価の視点	
1) 事業の必要性等に関する視点	
(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	4
(2) 事業の投資効果	5
(3) 事業の進捗状況	6
3. 県への意見聴取結果	7
4. 対応方針（原案）	7

1.事業の概要

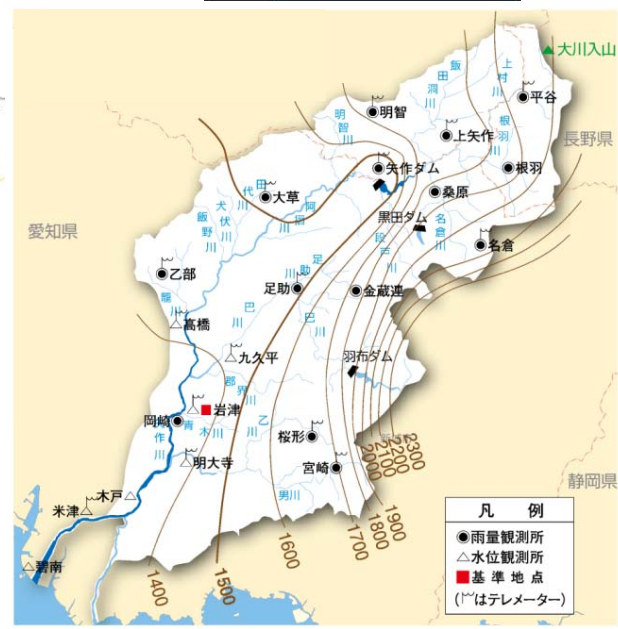
1)流域の概要

矢作川は、東海地方中央部の太平洋側に位置し、その源を中央アルプス南端の長野県下伊那郡大川入山(標高 1,908m)に発し、飯田洞川・名倉川等の支川を合わせ、愛知・岐阜県境の山間部を貫流し、平野部で巴川、乙川を合流し、その後、矢作古川を分派して三河湾に注ぐ、幹川流路延長約118km、流域面積約1,830km²の一級河川です。流域の平均年間降水量は、上流山間部で約2,200mm、下流平野部で約1,400mmとなっており、上流部は下流部の1.5倍程度の降水量となっています。また、年間降水量の変化は、典型的な太平洋型を示しており、降水量は6月の梅雨期及び9月の台風期に多く、冬季の12月から1月にかけて少ないです。

- ・ 流域面積 : 約1,830km²
- ・ 幹線流路延長 : 約118km
- ・ 流域内市町村 : 8市2町2村
- ・ 流域内人口 : 約74万人
- ・ 平均年間降水量 : 約1,400mm (下流平野部)
約2,200mm (上流山間部)



流域概要図



年平均等雨量線図

2) 主要洪水

矢作川は過去に幾度も洪水氾濫を繰り返しています。近年では、記憶に新しい平成12年9月洪水（東海（恵南）豪雨）により、大きな被害が発生しています。平成12年9月洪水以降、矢作川本川では大規模な出水は発生していませんが、支川流域では平成20年8月末豪雨に代表される局所的な豪雨等により、大きな被害が発生しています。

主要災害一覧

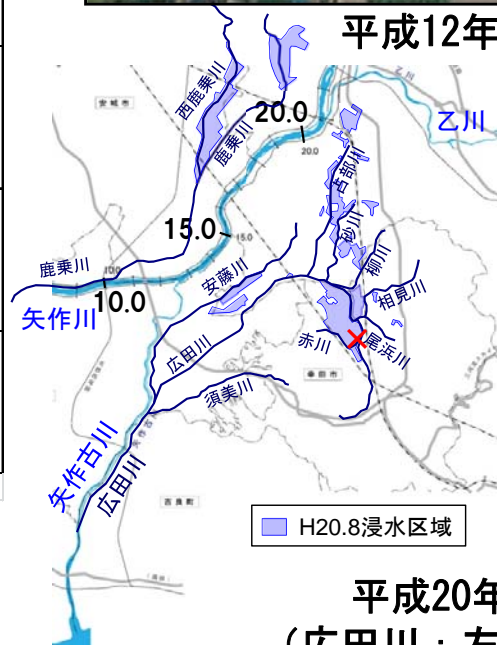
発生年月	要因	被害の内容	岩津地点実績流量
昭和34年9月	伊勢湾台風	全壊及び流失4,235棟、半壊14,188棟、 床上浸水1,990棟、床下浸水3,031棟、 水害区域面積 994ha	約3,600m ³ /s
昭和36年6月	台風と前線	全壊及び流失6棟、半壊53棟、 床上浸水371棟、床下浸水1,090棟、 水害区域面積 5,709ha	約3,300m ³ /s
昭和44年8月	台風7号	全壊及び流失3棟、 半壊床上浸水147棟、床下浸水478棟、 水害区域面積 2,738ha	約3,100m ³ /s
昭和47年7月	梅雨前線及び 台風6, 7, 9号	全壊及び流出452棟、 床上浸水3,877棟、床下浸水16,399棟、 水害区域面積 3,004ha	約2,600m ³ /s
平成12年9月	東海(恵南)豪雨 (秋雨前線及び 台風14号)	全壊及び流失26棟、半壊23棟、 床上浸水790棟、床下浸水1,962棟、 水害区域面積 1,798ha	約4,300m ³ /s [6,200m ³ /s]
平成20年8月	平成20年8月末豪雨	全壊及び流失5棟、半壊0棟、 床上浸水951棟、床下浸水1,927棟、 水害区域面積 547ha	約740m ³ /s

出典：S34「愛知県災害誌」、S36年以降「水害統計」

[]書き：ダム戻し流量



平成12年9月洪水



平成20年8月洪水
(広田川：左岸10k9付近)

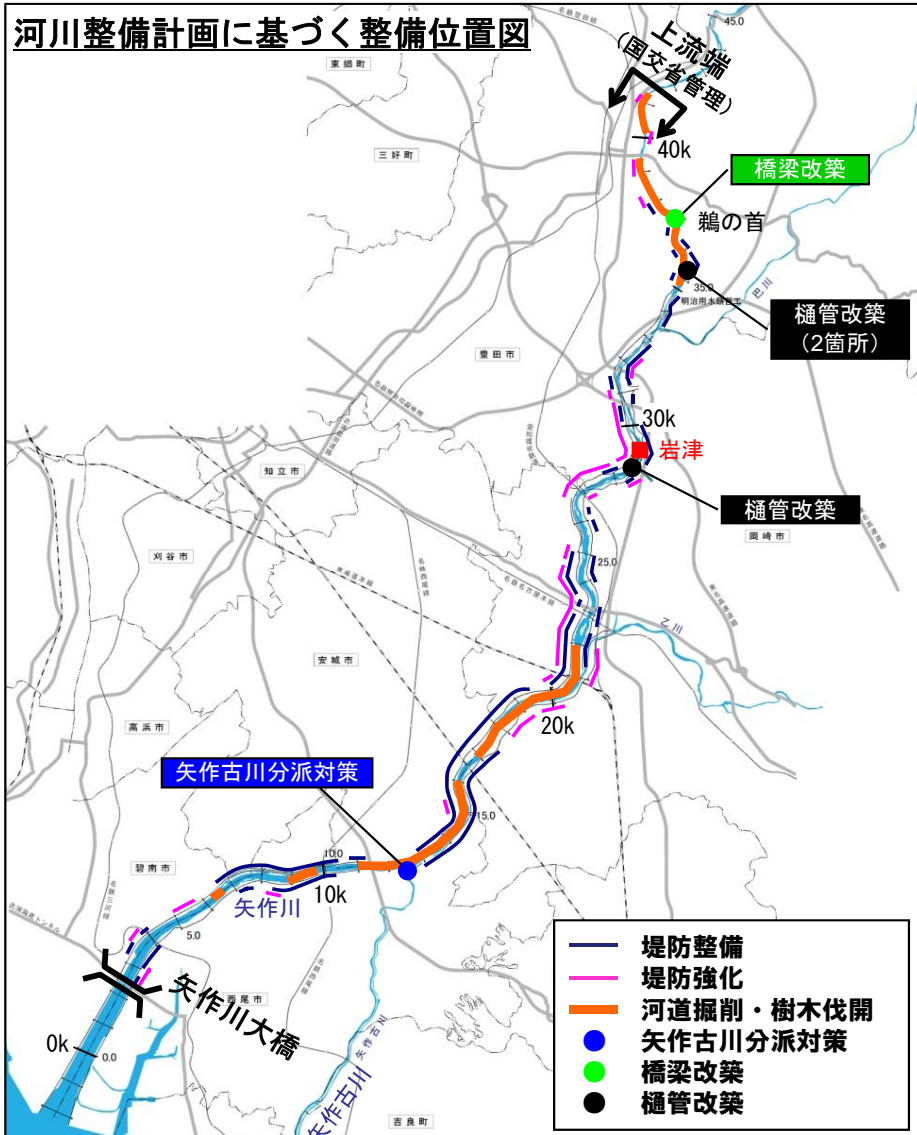


3) 事業の目的及び計画内容

矢作川は、豊田市内の鶉の首狭窄部をはじめ、各所で東海（恵南）豪雨に対する河道の流下能力が不足しており、堤防整備や河道掘削等が必要です。

平成21年7月に策定した「矢作川水系河川整備計画」では、基準地点岩津において矢作川の戦後最大洪水（平成12年9月洪水）と同程度の規模の洪水が発生しても安全に流下させることを目標としています。

河川整備計画に基づく整備位置図



■河川整備計画において目標とする流量と河道整備流量

河川名	基準地点名	河川整備計画 目標流量	洪水調節施設 による 洪水調節量 (矢作ダム)	河道整備流量	備考
矢作川	岩津	6,200m ³ /s	600m ³ /s	5,600m ³ /s	平成12年9月洪水対応

■河川整備計画（概ね30年間）での主な整備内容

整備項目	全体
堤防整備・堤防強化	46 km
河道掘削	270 万m ³
樹木伐開	27 万m ²
矢作古川分派対策	1 箇所
橋梁改築	1 箇所
樋管改築	3 箇所

※堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

■費用対効果 B/C=35.7 (H24再評価時)

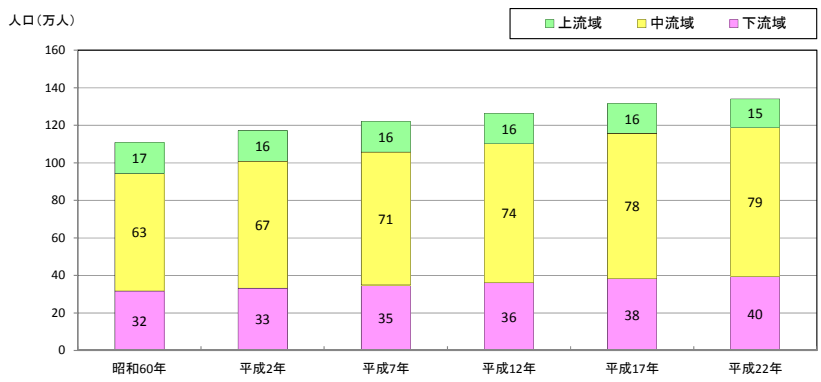
2. 評価の視点

1) 事業の必要性等に関する視点

(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

流域関連市町村人口(8市2町2村)は、約134万人であり、豊田市等における製造業の発展に伴い、年々増加傾向にあります。
 全国1位の工業出荷額を有する愛知県の半分を、当該流域の大半である西三河地域が占め、全国シェアも年々拡大傾向でしたが、近年は横這い傾向にあります。

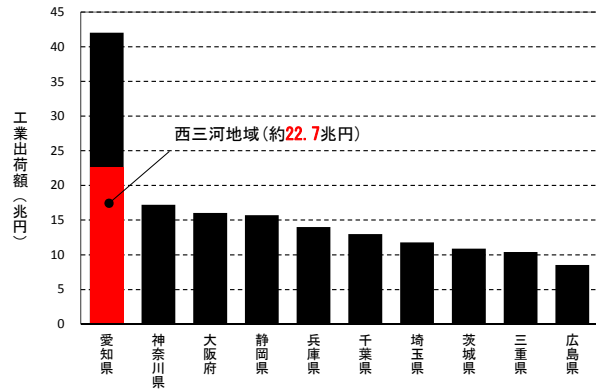
流域市町村の人口の推移



上流域：長野県(根羽村、平谷村)
 岐阜県(瑞浪市、恵那市)
 愛知県(新城市、設楽町)
 中流域：豊田市、岡崎市
 下流域：安城市、幸田町、碧南市、西尾市

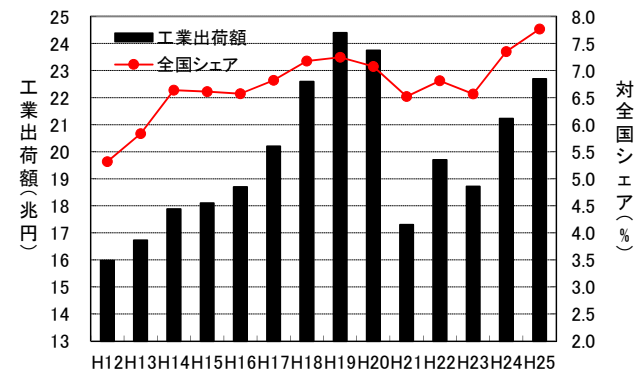
出典：国勢調査

工業出荷額の全国上位10位 (H25年)



出典：経済産業省 工業統計調査(平成25年)
 愛知県統計課 あいちの工業(平成25年)

西三河地域の工業出荷額と全国シェア



出典：経済産業省 工業統計調査(平成12年~25年)
 愛知県統計課 あいちの工業(平成12年~25年)

矢作川流域内は、東名高速道路、東海環状自動車道、一般国道1号、JR東海道新幹線、東海道本線等の重要な交通網が整備されています。

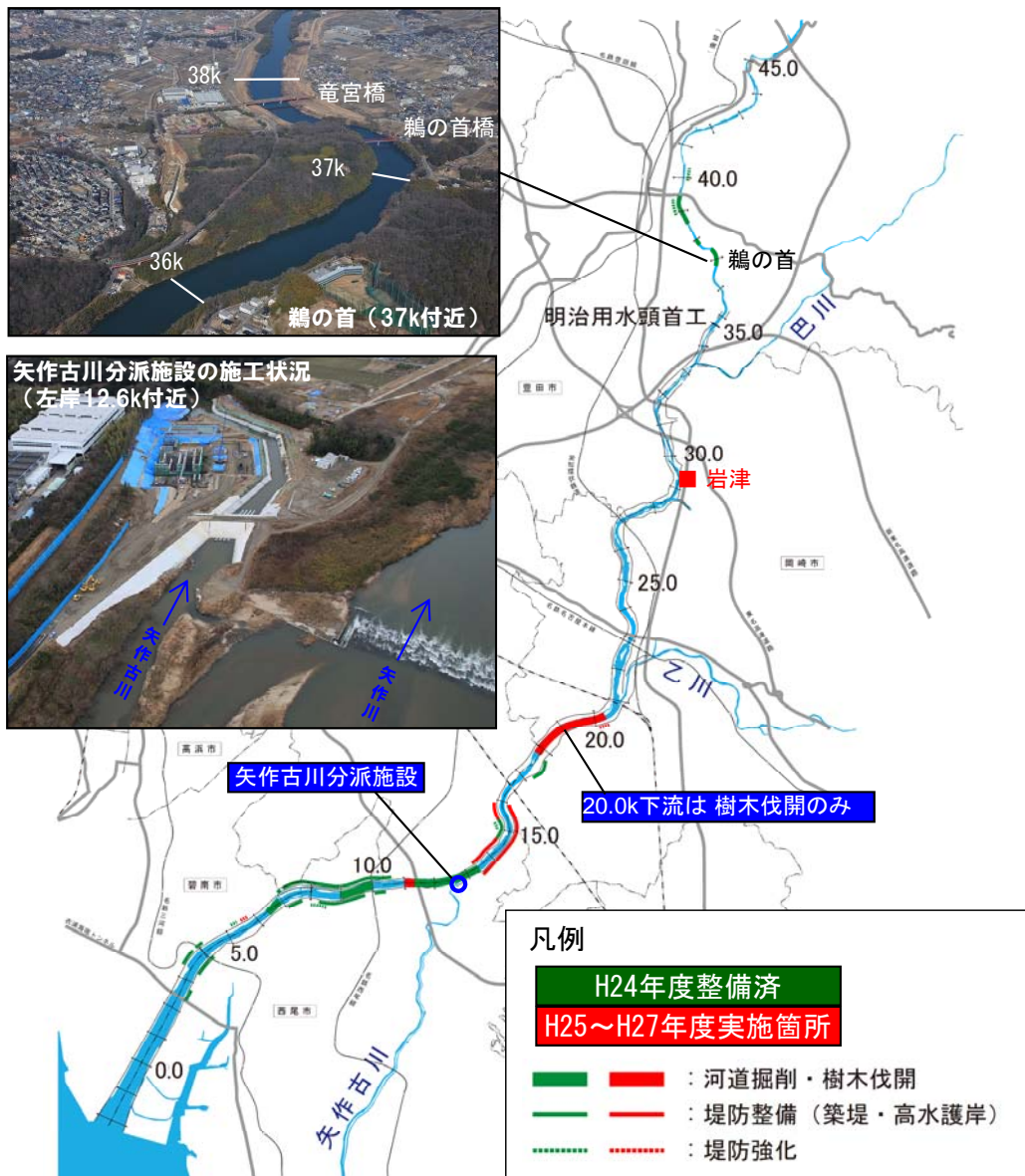
流域の主要交通網



(3) 事業の進捗状況

矢作川では、平成12年9月東海（恵南）豪雨規模の洪水を安全に流下させるため、鵜の首上流の豊田市区間の河道掘削、中下流部の堤防整備・堤防強化、河道掘削、樹木伐開を進めており、河川整備計画に計上されている事業の進捗率は、事業費ベースで約18%程度となっています。（参考：前回評価時の事業進捗率は約10%程度）

河川整備計画策定以降の主な河川改修箇所



河川整備計画にて計上された主な事業の実施状況

整備項目	事業全体	H24年度末完成	H27年度末完成(予定)
堤防整備・堤防強化	46 km	9 km	16 km
河道掘削	270 万m ³	30 万m ³	36 万m ³
樹木伐開	27 万m ²	4 万m ²	16 万m ²
矢作古川分派対策	1 箇所	—	1 箇所
橋梁改築	1 箇所	—	—
樋管改築	3 箇所	—	—

※堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

平成28年3月末時点

【整備前】堤防強化（左岸20.2k付近）



【整備後】堤防強化（左岸20.2k付近）



◆堤防強化の整備イメージ

【整備前】河道掘削・樹木伐開（左岸11.0k付近）



【整備後】河道掘削・樹木伐開（左岸11.0k付近）



3. 県への意見聴取結果

愛知県への意見聴取の結果は、以下のとおりです。

(愛知県)

○「対応方針(原案)」案に対して異議はありません。

なお、事業実施にあたっては、一層のコスト縮減など、より効率的な事業推進に努められるようお願いいたします。

4. 対応方針(原案)

以上のことから、矢作川水系河川整備計画に基づく、矢作川直轄河川改修事業を継続していきます。